

子育て家庭および保育現場におけるコロナ禍の影響と変化への一考察
— 保育士養成課程に在籍する学生の視点をとおして —

A consideration Influences and Changes in COVID-19 Related Crisis at
Child-rearing Family and Nursery Schools
— Through the Students' Perspectives in Training Courses
for Childcare Workers —

足立法子*

(令和3年2月3日受理)

要約

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が保育現場の方々にどのような影響をもたらしているかについて、保育士養成課程に在籍する学生に対して自由記述による調査を行った。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除された後に実習を行った卒業年次学生が対象となった。

新型コロナウイルス感染症の拡大による行動自粛や感染症対策等の影響について、保育者の心配ごとや仕事における苦勞、保育現場にいる子どもたちやその保護者について感じていることの記述を求めた。保育現場での苦勞としては感染症の予防と子どもたちを育むにあつたての苦慮、保育内容に関する工夫や変更の負担について捉えていた。子どもにとっての影響としては、育ちにかかわる視点から感染症予防による子ども同士のふれあいの減少とマスク着用に関するコミュニケーションの困難さ、保護者にとっては子どもの育ちへの心配とともに生活者としての苦勞についての視点からも捉えていることがわかった。

キーワード：新型コロナウイルス感染症、保育現場、子育て

keywords：COVID-19 Related Crisis, Nursery Schools, Child-rearing

1. はじめに

2019年12月に中国の武漢市で新型肺炎が報告され、新型のコロナウイルスが病原体であることが確認された。2020年2月28日付文書にて全国の小中学校に対して3月2日から春休みまでの間、全国一斉の臨時休業が要請された。2020年4月7日に第1回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出され、区域の変更や延期の後、5月25日に新型コロナウイルス感染症緊急事態解除宣言が発出された。自治体によって小中学校での対応は異なるが、兵庫県下では5月31日まで臨時休業となり、子どもたちはしばらく自宅待機を余儀なくされた。

保育園や幼稚園でも休園等の措置がとられた。

兵庫県神戸市を例に状況を見てみると、幼稚園では小中学校に準じて休園となり、6月1日からの2週間を分散登園にて実施し、6月中旬に保育が再開された。なお幼稚園の休園中については、子どもの預かりが必要な場合には代替措置等の適切な対応をとるよう要請されている。保育園や認定こども園、地域型保育事業等（これ以降保育園等とする）では、家庭での保育協力を保護者へ依頼した。まず、3月3日から公立小学校に準じて「家庭保育要請期間」とし、各家庭の状況や必要に応じて保育を行った。小中学校が春休みの期間も家庭保育養成期間は継続された。その後、「特別保育」へ移行するとして、真にやむを得ない場合に限り保育を受け入れる「特別保育期間」を4月14

(*あだちのりこ 保育科講師 発達心理学・生涯発達心理学)

日から5月6日まで、さらに5月7日から5月31日までと延長して実施された。公立小学校での分散登校開始と同時に、保育園等では6月1日以降も可能な限り家庭保育を要請しつつ、段階的に通常保育へと移行された。なお、「家庭保育要請および特別保育期間」において、保護者の急な状況変化への対応や虐待リスクを避けるため、保育園等では電話での相談を受け、また緊急時にはすぐに保育を提供できるよう体制も整えていた。

本学は保育士ならびに幼稚園教諭を養成する短期大学であり、2年間での修得を目指す「第一部」と午前中の授業を中心として3年間での修得を目指す「第三部」の2つの専攻がある。2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のために4月10日からの授業開始を4月20日へと延期したが、4月7日の緊急事態宣言の発出により、実際には5月11日からオンラインによる授業を開始した。したがって、学生自身も2020年2月頃から、自宅待機や自粛生活を余儀なくされ、授業開始時期や方法の決定を待っている状況が続いた。オンラインによる遠隔授業の開始に合わせ、自宅から受講するために学習環境を整え、初めて受けるオンライン授業に右往左往しながらも勉学に励んだ。

本学在学生らは将来において子どもを育む保育の担い手として活躍するため、保育者の役割、子どもたちの育ちゆく姿、保護者への支援や協働の在り方をさまざまな分野から学んでいる途上にある。保育実習では保育所（認定こども園含む）や児童福祉施設を主とした施設での実習を必修3回（各10日間80時間以上）、学生の入学年度によって異なるが選択して施設実習1回（10日間80時間以上）を追加して行う学生もいる。教育実習については、本研究の調査対象者となった学生は幼稚園（認定こども園含む）において2回（1週間と3週間、計4週間）の実習に出向いている。在学中に行う複数回にわたる実習において、知識と実際の保育現場の様子を結び、また学生自身の保育技術の修得と向上を目指している。2020年度の実習は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながらの実施となり、本学では学生たちが現場での学びの機会が得られるよう、受入れへの協力可能な施設

において実習を実施することとなった。誰もが初めて経験するコロナ禍という状況のなか、保育現場での保育活動も初めての対応を求められることが多く生じると想像される。コロナ禍以前に行われてきた保育活動をそのまま実施することは難しく、保育現場においても感染症対策のための工夫や保育内容の変更が求められことは想像に難くない。生活者の誰もが不安の只中にあり、また、感染症対策については試行錯誤をしている最中である。保育者がいかに保育に取り組もうとしているのか、保育を行う上での困難さをどのように感じているのだろうか。また、保育園等に通う子どもたちはコロナ禍という状況においてどのように過ごしているのか。子どもたちの保護者の状況は保育という場においてどのように捉えられるのか。変化が大きな時期に実習に出向いた学生たちの目にどのように映っていたのか、彼らの視点から保育現場のコロナ禍の影響と変化について捉えようとするものである。

2. 目的

新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、感染防止対策をしながら保育にあたる保育者、子どもたち、保護者について、それぞれの苦労や影響を実習生としてどのように捉えているかを知ることが目的に、自由記述によるアンケート調査を実施した。どのような視点をもって保育現場やそこにおける新型コロナウイルス感染症の影響を捉えているか、また、保育士養成課程に在籍する学生の実習生としての視点について、彼らがどのような事柄に着目しているのかを検討することを目的とする。

調査対象は短期大学在学生のうちの最終学年とした。彼らは新型コロナウイルス感染症拡大以前にも保育実習等を行った経験があり、保育現場の状況を知っている。第一部も第三部の学生のいずれも教育実習（3週間）を終えた後に自由記述によるアンケート調査を行った。これまでの実習体験を手がかりとして用いることによって、保育者や子どもたち、あるいは子育て中の保護者の新型コロナウイルス感染症対策や休園措置等の影響を

どのように受け取っているかの検討が可能となる。新型コロナウイルス感染症拡大後のコロナ禍における保育現場において、実習生である学生が感じ取ったことそのままに回答を求めることで、保育現場や保育現場を利用する子どもや保護者への新型コロナウイルス感染症の影響を捉えようとするものである。

なお、自由記述によるアンケート調査を実施した直近の実習種別は同様であるが、実習の実施回数は対象学生によって異なっている。本調査は就学前の幼児教育を担う「保育」という場において保育者や子ども、子育て中の保護者が新型コロナウイルス感染症拡大による影響をいかに受けているかを学生の視点から捉えようとするものである。実習種別や実習回数による差異については問わないこととした。

3. 方法

調査対象者は卒業年次学生とした。筆者が担当している授業において、第三部の学生へは2020年7月10日、第一部の学生へは2020年10月28日に調査依頼をした。回収方法は、本学において用いているクラウド型教育支援システムを利用した。調査説明はzoomにて行い、調査の目的と内容を説明し調査への協力依頼をした。また、自由記述によるアンケート調査であり、正解を問うものではないこと、回答の有無や内容によって成績等へ影響しないことを説明した。また、得られた結果は個人が判別できないよう処理し、記述データとして利用することも説明をした。なお、提出期間は2週間とした。

調査項目について、「保育・子育て現場へ想いをよせて」というタイトルにてアンケートを提示し、冒頭に「新型コロナウイルスによる感染症拡大防止のために、外出自粛の要請が実施され、今なお感染拡大に留意をしながらの生活が求められています。さて、教育実習期間を終えて、子どもたちや現場の保育者の方々はどのような様子でしたでしょうか。また、仕事やそれにかかわるご苦労はどのようなことがあるでしょうか。改めて、あなたの考えや感じていることを自由にお聞かせくだ

さい。」と提示した。回答を求めた項目は次のとおりである。「1. 保育の現場にいる保育者の方々が1-1) 心配をしていること、1-2) 仕事やそれにかかわるご苦労とは」、「2. 子どもたちへの影響や様子」、「3. 保護者の方々への影響や心配ごと」、「4. その他（あなたの感じたことを自由にお聞かせください）」とした。

4. 結果

アンケートの対象者は174名であり、このうち166名から回収し、回収率は95%であった。そのうち、無記名の場合と「実習に行っていません」などと記している場合には除外し、31名分を無効とした。データとして利用できる回答は135名分であり、有効回答率は81%であった。

得られた結果は個人が判別できないように集約し、記述データとして利用した。設問ごとの記述をについて分類し、カテゴリーを説明する項目を設けた。カテゴリーごとに代表的な記述内容を選択し、質問項目ごとに表1から表4を作成した。記述内容が複数の項目に該当する場合には、該当項目ごとに分類した。

(1) 保育者の心配ごと

記述内容を8つのカテゴリーに分類した(表1)。感染(n=108)についての記述が最も多く、「新型コロナウイルスへの感染」や「幼稚園内でのクラスター発生」を分類した。次に「集団での活動ができなくなるか。行事など例年通りに行えるか、行っても大丈夫か。」などを保育内容に関する心配(n=17)と分類した。また、「密を避ければ避ける分だけ子どもたちの友達同士で遊ぶ楽しさの経験が少なくなってしまうなど感じた。」などと、子ども同士のかかわりの不足(n=11)を懸念していた。また「マスクをしているので、熱中症や脱水症状などになりやすいため、注意が必要になる。」など、感染症対策による健康被害とした(n=11)。「行事などが中止になり、その経験をさせてあげられないこと。園の開始時期がずれたことの発達の遅れ。」を子どもの経験不足(n=9)とした。また、子どもとのかかわり困難(n=6)、

表1. 保育実習生が感じる新型コロナウイルス感染症による「保育者の心配ごと」(N=135)

分類	記述数	主な記述内容
新型コロナウイルスへの感染	108	幼稚園内でのクラスター発生。 自分がコロナウイルスに感染し子どもたちに移すことがないかの心配。
保育内容変更の心配	17	集団での活動ができなくなるか。 行事など例年通りに行えるか、行っても大丈夫か。 子どもがしっかり思いっきり遊べているかどうか
子ども同士のかかわり不足	11	子どもたち同士の関わり 密を避ければ避ける分だけ子どもたちの友達同士で遊ぶ楽しさの経験が少なくなってしまうと感じた。
感染症対策による健康被害	11	マスク着用による熱中症。 マスクをしているので、熱中症や脱水症状などになりやすいため、注意が必要になる。
子どもの経験不足	9	行事などが中止になり、その経験をさせてあげられないこと。 園の開始時期がずれたことの発達遅れ。
子どもとのかかわり困難	6	マスクを着用していることで、子どもたちの表情が見にくく、伝わりにくい。 歌や絵本を見るときは距離が近くなるように間隔をあけてシールを貼り示すようにして接触を避けるようにしていることで子ども達の様子を細かく見ることができない。
保護者への影響	5	子どもの体調の保護者への問い合わせ。園を介した保護者への感染 仕事の変化によって発生している夫婦間の温度差
人手不足の増長	1	人手不足の上に更に人手不足

保護者への影響 (n = 5)、人手不足の増長 (n = 1) と分類した。保育者の心配ごととして分類した記述内容は168項目であった。

(2) 保育者の仕事やそれにかかわる苦勞

「保育者の仕事やそれにかかわる苦勞」への記述を分類したところ、242項目となった(表2)。

感染症の予防や対策 (n = 141) として大項目をつけ、その下位項目として7項目に分類した。①消毒、②密にならない対応、③マスク着用、④手洗い、⑤検温、⑥食事対応、⑦換気となった。さらに、感染症対策全般の苦勞 (n = 38) として、「感染対策の大変さ」を分類した。また、子どもの体調管理 (n = 22) として、「子どもの体調の変化にいち早く気づく必要があるので常に気を張っておかないといけない。」などの記述を分類した。保育内容の検討や変更 (n = 27) として「なるべく子ども同士が密にならないような保育を行うこと」を分類し、家庭支援 (n = 9) としては「コロナの影響で仕事が忙しくなった家庭の支援をす

ること。」などを分類した。「気疲れ」や「人手不足」など1名のみ記述はその他 (n = 5) とした。

(3) 子どもたちへの影響や様子

「子どもたちへの影響や様子」についての記述は225項目となり、それらを15のカテゴリーに分類した(表3)。

まず、マスク着用とそれにともなう影響 (n = 67) として、「マスクをずっとつけないといけないことに不快に思う子がいた。」や「常にマスクをして生活しなければならない。」という状況が多く挙げられた。子ども同士のかかわりの変化・減少 (n = 33) として、「友だちと触れ合いながら遊ぶことが出来ず、保育者とのふれあいが難しい。」や「分散登校などでお友達やクラスの子に会いにくくなっている。」を分類した。また、遊びの質・内容の変化 (n = 31) として「戸外で身体を動かしたり自然に触れて遊んだりすることよりも、室内でゲームなど受身的な遊びを好む子どもが多いと

表2. 保育実習生が感じる新型コロナウイルス感染症対策による「保育者の仕事やそれにかかわる苦勞」(N=135)

分類	記述数	主な記述内容
感染症の予防や対策 (①～⑦)		
①消毒	67	玩具などの消毒、飛沫防止のしきり、食事前のアルコール消毒など徹底していた。
②密にならない対応	34	どうしたら密にならないように子どもたちが快適に過ごせるようにできるかを考えること 身体接触の少ない遊びを行わなければならないこと
③マスク着用	12	マスクをしているので子どもの表情や保育者の表情が見えない。 1日マスクをつけないといけない。
④手洗い	10	手洗いうがいの呼びかけや、保育室や玩具の消毒を徹底しなければいけないこと 常に手洗いうがいをして子ども達の様子をしっかりと見る。
⑤検温	9	毎日の検温表の確認や、こまめに体温測定をする。
⑥食事対応	7	昼食の準備をする際、机を出したらまずアルコールで机の上を消毒し、子どもたち同士が向かい合う席にはシールドを用意し飛沫を防ぎ、一人ひとりの手にアルコール消毒をしていた。
⑦換気	2	保育室の換気を行うこと
感染症対策全般の苦勞	38	自分たちの感染も防がないといけない子どもの体調ももっとよく見ないといけない。 感染対策の大変さ
子どもの体調管理	22	子どもの様子を確認しなければならない。 子どもの体調の変化にいち早く気づく必要があるので常に気を張っておかないといけない。
保育内容の検討や変更	27	なるべく子ども同士が密にならないような保育を行うこと。 今までできていた活動も中止される物や今までとやり方を変えてなんとか実施する事に苦勞されていました。 2人ペアになる遊びや団体遊びの経験が少なくなっていることにたいして苦勞されていました。
家庭支援	9	コロナの影響で仕事が忙しくなった家庭の支援をすること。 水遊びや園庭開放など今までできていたことができなくなり、保護者の要望に対応することが増えている
その他	5	(実子への対応、人手不足、職場関係、気疲れ、給与の変化)

感じました。」などという記述を分類し、感染症対策・感染への危機、不安 (n=27) として「子どもたちも、コロナについて理解している部分が見え、自らしっかり手洗いをするようお友達に伝えていたりする場面が見られた。」や「コロナウイルスについて怖がっている姿があった。」を分類した。さらに、食事時のかかわりの変化 (n=19) として「給食の時間もみんなと一緒に食べるのでは無く、2人組でパネルを挟んでだったので少し寂しいような感じがした。」を、行事の縮小・減少

(n=10) へは「行事ごとが無くなって残念そうだった。」を分類した。一方で、状況への柔軟さ (n=8) として「マスクを自分から着けるようになった。」や「ご飯の時にパーティーが物珍しいのか逆に楽しそうだった。」などが状況への柔軟さを示す様子が挙げられた。少ない記述数となるが、自粛／感染症対策によるストレス (n=5)、スキンシップの減少 (n=4)、間隔をとることの困難さ (n=4)、発達への影響・体力低下 (n=3)、保育者の配慮の重要さ (n=3)、大人の様

表3. 保育実習生が感じる新型コロナウイルス感染症による「子どもたちへの影響」(N=135)

分類	記述数	主な記述内容
マスク着用とそれにもなう影響	67	常にマスクをして生活しなければならない。 マスクをずっとつけないといけないことに不快に思う子がいた。
子ども同士のかかわりの変化・減少	33	友だちと触れ合いながら遊ぶことが出来ず、保育者とのふれあいが難しい。 分散登校などでお友達やクラスの子に会いにくくなっている。
遊びの質・内容の変化	31	戸外で身体を動かしたり自然に触れて遊んだりすることよりも、室内でゲームなど受身的な遊びを好む子どもが多いと感じました。
感染症対策・感染への危機、不安	27	コロナウイルスについて怖がっている姿があった。子どもたちも、コロナについて理解している部分が見え、自らしっかり手洗いをしようお友達に伝えていたりする場面が見られた。
食事時のかかわりの変化	19	給食の時間もみんなで一緒に食べるのでは無く、2人組でパネルを挟んでだったので少し寂しいような感じがした。
行事の縮小・減少	10	行事ごとが無くなって残念そうだった。誕生日会など、他のクラスの友達とホールなどで集まる行事できないため、少し残念がっているように見えた。
状況への柔軟さ	9	マスクを自分から着けるようになった。ご飯の時にパーテーションが物珍しいのか逆に楽しそうだった。これまでしていたことと変わった部分もあると思うのですが、子どもたちは毎日生活して行き、自分の中にその変わった生活を含め生活していつているのではないかと思う。
コミュニケーションへの影響	7	先生たちがみんなマスクをしているので声が聞こえにくかったり表情がわかりにくいなどの影響がある。 子ども同士で楽しく会話をしながらご飯を食べたりできないので、子どものコミュニケーション能力が衰えてくるのではないかと思う。
自粛／感染症対策によるストレス	5	コロナで外に遊びに行きたくても思ったように遊びに行かれないので、園で外で遊ぶときに遊び足りなくて教室に戻らない幼児が多い。 自粛生活でストレスが溜まっていたので、幼稚園では汗がびしょびしょになるまで遊びまわっていた。
スキンシップの減少	4	保育者とのスキンシップに限られる。自由が減っていたり、先生とのスキンシップも取りにくくなっている。
間隔をとることの困難さ	4	遊戯室での活動で離れてと教師にゆわれても難しかったりしていた。距離を保って話さないといけない・あまり引付いた遊びが出来ない。
発達への影響・体力低下	3	コロナの自粛期間で外で遊ぶことが少なくなり、足の筋力や体力が低下している。
保育者の配慮の重要さ	3	保育者は気に留め、声かけを積極的に行っていて、その子が仲良く輪に入れる環境をつくっていた。
大人の様子から察知している	2	手洗いうがいをしっかり言わなくてもするようになった。
家族で楽しむ機会の減少	2	家族での旅行が楽しめない、楽しむ機会が減っていること。
虐待の危険上昇	1	虐待される子どもが増えるかもしれない。

子から察知している（ $n = 2$ ）、家族で楽しむ機会の減少（ $n = 2$ ）、虐待の危険上昇（ $n = 1$ ）というカテゴリーを設けそれぞれの記述を分類した。

(4) 保護者の方々への影響や心配ごと

子どもの保護者としての影響や心配ごとについて、「わからない」や無回答数が12名あり、135名のうちの123名の記述を分類の対象とした(表4)。

役割ごとの記述が見受けられたため、まず「1) 保護者として、2) 保育を介すること、3) 生活者として」に大別し、さらに、下位項目へと分類した。1) 保護者としての下位項目は、①子どもの感染・感染症対策（ $n = 76$ ）、②子どもの体調管理（ $n = 12$ ）、③子どもへのかかわり方の変化・工夫（ $n = 6$ ）、④子どもの活動不十分・ストレス（ $n = 5$ ）、⑤子どもの成長発達（ $n = 3$ ）、⑥子育てへの不安（ $n = 2$ ）、⑦子ども同士のかかわりの減少（ $n = 1$ ）を分類した。

2) 保育を介することの下位項目は、①保育へのかかわり方・参加方法（ $n = 16$ ）、②子どもの集団生活への参加・過ごし方（ $n = 14$ ）、③保育内容の見通し（ $n = 9$ ）、④保護者同士のかかわり方（ $n = 4$ ）、⑤子どもの預け先、休園（ $n = 3$ ）、⑥保育者とのかかわり方距離の取り方（ $n = 2$ ）、⑦子育て支援事業の減少（ $n = 1$ ）のカテゴリーへ分類した。

3) 生活者としての下位項目は、①仕事（勤務時間、働き方の変化）（ $n = 8$ ）、②自宅で過ごす時間の増加（ $n = 4$ ）、③緊急時の対応（ $n = 4$ ）、④子どもとの時間の増加（ストレス）（ $n = 4$ ）、⑤夫婦関係の変化（ $n = 1$ ）、⑥経済的なこと（ $n = 1$ ）のカテゴリーへ分類した。

5. 考察

学生の自由記述を分類した結果から、設問ごとに考察をする。

(1) 保育者の心配ごと

保育者の心配ごととして(表1)、新型コロナウイルス感染症への懸念についての記述が $n = 108$ の項目数となり、保育において大きな課題と

なっていることを学生が捉えていることがわかった。子どもたちへの感染、園における感染、保育者自身の感染について心配をしている。また、新型コロナウイルスの感染予防のため、カテゴリーとして設けた、「保育内容の変更」や「子ども同士のかかわり不足」、「子どもの経験不足」についても休園や保育協力の影響、感染症予防のための保育内容の変更による保育内容の変更にともない、子どもたちへの影響を心配しているのではないかと捉えていることがわかった。また、感染症予防のためのマスクによる熱中症の危険についても懸念があると捉えており、子どもたちのマスク着用による健康被害があることを保育者が危惧していると受け取っていることが考えられた。

感染を防ぐために保育者と子どもたちとのかかわり方が変化していることから、子どもたちへのスキンシップの不足やその影響について心配をしているのではないかという意識、自粛生活やコロナの影響による保護者への影響についても保育者として心配しているだろうことを認識をしていることが考えられる。実習生として保育者の仕事を担いながら、保育者の視点にたつて園全体を見回していることを読み取ることができる。

(2) 保育者の仕事やそれにかかわる苦勞

保育者の仕事やそれにかかわる苦勞(表2)について、子どもたちの安全管理のために感染症対策が本項目の多くを占めた。「感染症の予防や対策（ $n = 141$ ）」分類した消毒、密にならない対応、マスクの着用、手洗い、検温、食事対応、換気の7項目への記述が大半であることから、学生たちが保育現場において感染予防という新たな対応が必要となった様子を目の当たりにしてきたことがわかる。登園時から降園時まで感染症対策をしなければならず、保育者の苦勞や負担が大きくなっていると受け取っていた。コロナ感染症による様々な影響についても視点が及んでおり、保護者への対応や情報提供にも保育者は苦慮しており、労力が割かれていることへの言及があった。また、生活者としての保育者への視点を持ち、職場での気疲れだけでなく、実子への対応も必要であること

表4. 保育実習生が感じる新型コロナウイルス感染症対策による「保護者への影響や心配ごと」(N=123)

分類	記述数	主な記述内容	
保護者として	子どもの感染・感染症対策	76	自分の子どもが感染しないか不安、園で伸び伸びと遊んで欲しいけど密集になっている中で感染しないかとても不安
	子どもの体調管理	12	家での体調管理、消毒を徹底していた。少しの体調の変化でも構わないから随時伝えてほしい
	子どもへのかかわり方の変化・工夫	6	子どもたちを連れていろいろなところに行かなくなってしまう。
	子どもの活動不十分・ストレス	5	コロナの影響で長い間園で保育ができず、子どもの発達の遅れに不安を感じている。
	子どもの成長発達	3	子どもの心と体の成長、
	子育てへの不安	2	ストレスが強くなる。育児に対するストレスが溜まってる親御さんのストレスの解消のサポート。
	子ども同士のかかわりの減少	1	子ども同士の触れ合いが出来ず、発達等に遅れが出ないか心配。
保育を介すること	保育へのかかわり方・参加方法	16	散らすために、クラスごとに保育室の近くに並び、保護者もその周りに待つようになった。
	子どもの集団生活への参加・過ごし方	14	園での対人関係は上手くやっているか、元の園での生活に慣れる事ができたか
	保育内容の見通し	9	満足に子どもたちが過ごせていないのではないかと不安になっている
	保護者同士のかかわり方	4	降園の時にあまり長時間いると良くないので他の保護者と会話などができない
	子どもの預け先、休園	3	家族が熱が出ていると、保育園や幼稚園に預けられないので、大変(本人が元気でも)
	保育者へのかかわり方距離の取り方	2	保育者は保護者と会話する時に距離をとって会話をしていた。
	子育て支援事業の減少	1	園庭開放をしていないので遊びに行くことが少なくなり、子どもたちのストレスが溜まるかもしれない不安
生活者として	仕事(勤務時間、働き方の変化)	8	仕事が忙しくなって子どもとの関わりが減ってしまって子どもに寂しい思いをさせてしまっているのではないかということ。
	自宅で過ごす時間の増加	4	外に出れず子ども達がずっと家の中で、少ししんどい思いをしているのではないか 子どもの様子をしっかりと見てあまり遊びに行けなくなった
	緊急時の対応	4	何かあったらすぐ迎えに行く。
	子どもとの時間の増加(ストレス)	4	外に出れず子ども達がずっと家の中で、少ししんどい思いをしているのではないか
	夫婦関係の変化	1	仕事を取り巻く環境の大幅な変化によって、働き方が変わったり、働く時間帯・スタイルが変わっていたりすると思います。そのことにより、夫婦間での摩擦がでてしまっている家庭があるように感じました。
	経済的なこと	1	いつ仕事がやめさせられるかも分からない状態で、子どもを養っていけるか心配

や仕事時間の減少にかかる給与の変化についても言及がなされ、働く主体への視点によって保育者をとらえていると考えることができる。

また、保育内容についても検討しなおす必要があること、行事として実施していたことができなくなったり実施方法を変える必要が生じていることへの記述もあった。子どもたちの様子に注意をする必要があること、家庭支援や体調管理、マスク使用による熱中症の対策についても手がかかるのではないかと学生たちは考えている。感染症対策を講じながら、保育内容の検討や変更を行い、さらに家庭支援を求められ、保育者の役割の重要性と多岐にわたることを認識していることがわかった。

(3) 子どもたちへの影響や様子

子どもたちへの影響や様子について(表3)、保育現場において子どもの様子を目の当たりにし、感染症対策による子どもたちの行動の変化をとらえていることがわかった。まず、マスクをしていることによって遊び辛さが生じているように見受けられること、マスクがあることによるコミュニケーションをとることへの影響があると学生らが捉えてことがわかった。マスクをすることによって他者の顔が見えづらくなったり、声が聞こえにくくなること、暑い時期には熱中症などの健康に関する影響、身体を動かす遊びの際にはマスクが邪魔になることについての記述があった。また、保護者からマスクを外さないようにと言われていた場合には、外遊びなど外してよいと保育者から言われる場合にも、外そうとしないことについての記述がある。マスクが辛そうではあるが、一方で手作りのマスクを見せ合っている姿がある様子なども記述されており、感染症対策の1つとして取り入れられたマスクの影響を大きく受けながら、子どもたちが過ごしていることを学生らは捉え、子どもたちが状況にあわせて生活している姿を垣間見たであろうことがわかった。

食事場面での過ごし方の変化、遊びの質の変化、子ども同士のかかわりが減少していることや保育者とのスキンシップの減少についても記述され

た。子どもたちの生活や保育の場という状況にも新型コロナウイルス感染症予防による大きな変化が学生によって捉えられていることがわかった。感染症対策のために行動変容を余儀なくされたり、遊びや他者とのかかわりの質の変化があるとの記述からも読み取ることができる。家庭での過ごし方についても変化があるということや保護者のストレスが増し虐待の可能性が高まることについても記述がある。集団の場において子ども同士が間隔をたもって過ごすことには限界もあり、場になれていない子どもたちの生活での保育者の援助や介入の重要性を学生たちが感じ取っていたことがわかった。

集団生活の機会の提供がなされなかった時期があり、特に幼稚園等での保育が再開された6月のころには子どもたちの様子がぎこちないものであったことも記述から読み取ることができる。新型コロナウイルス感染症対策により講じた休園や保育協力、保育内容の見直しなど、機会喪失や状況の変化が生じている。保育の場は様々な体験や学習の機会を子どもたちへ提供しており、育ちの場としての重要な役割を担っていることを学生たちが認識していることも捉えることができる。

子どもたちの様子について、コロナ感染症については周囲の大人の様子から理解していることとともに、変化の大きな状況にあわせて柔軟に行動している子どもたちの様子が「状況への柔軟さ」へ分類した記述から読み取ることができた。困難さもあるが、それらを受け取り育てゆく子どもたちの姿に学生が出会い、それらに気づいていた。子どもたちの状況への柔軟さへ気づく視点があることが記述をとおして読み取ることができた。

(4) 保護者の方々への影響や心配ごと

本項目については、無記名や「わかりません」という記述もあった。その一方で回答が多岐にわたり、また実際の保護者の様子からとらえている言及もあった。実習生として保護者と会話などのやりとりをしていること、保育者や保育にかかわっている保護者の様子に気づく視点を持っていることが記述内容から読み取ることができた。

1) 子どもに関することについて、子ども自身が感染症にならないか、子どもの体調管理、子どもへのかかわり方の変化や工夫、子どもの活動が不十分やそれによるストレスについて、子どもの成長発達や子育てへの不安を分類した。

感染症の影響として、感染症にならないかという心配に加え、マスクなどの作製の負担についても記述があった。実際に保護者と話しをしたこととして記述をしていることが見受けられた。また、子どもたちの体調管理への心配に関して、検温などの体調管理についても負担があるのではないかという言及がある。保育現場において子どもたちとのかかわりから検討した保護者の子育てでの負担について記述がなされていることが特徴的であった。

子どもの生活上の行動が制限されていることについて、保護者が家庭において子どもへのかかわり方を工夫されているのではないか、子どもの活動が不十分になっていることにより子どもにストレスがかかっていることへの心配があるのではないかと記述された。保護者の心配ごとや影響として、感染症への罹患についての心配をするとともに子ども同士のかかわりが減少していることによる子どもの育ちへの心配をされていることについての言及があった。保護者が仕事のためだけではなく、子どもの成長発達を考える上でも保育園へ子どもを預けたいものの、子どもたちが感染症にかかることを心配されているということの二面性についての視点を持ち、このような心情があることへの理解をしていることを読み取ることができるのではないだろうか。

2) 保育を介することへの記述について、保育へのかかわり方や保育への参加方法の変化では、お迎えの方法や行事の際の参加の仕方に変化が生じていることが保護者が子どもたちの様子を知る機会を逸していると考えた記述があった。また、子どもたちがどのように集団生活のなかで過ごしているのかということについて、心配であることの反面、感染対策をきちんとされていることがわかると安心でき負担が軽減されるのではないかと記述もあった。保育内容に関する見通しとし

ては、子どもたちの保育における過ごし方への心配や行事がどのようになるかというような見通しがたえず不安があるのではないかと記述があった。また、休園の際の子どもの預け先、保育者とのかかわり方や距離の取り方の変化、子育て支援事業の減少について、保育者や保護者同士のかかわり方が変化し、同じクラスの保護者同士がかかわる機会も減少しており、互いの子育てや状況を知る機会が減ることが言及されていた。子育ての情報を互いに共有することについての機会が減少していることが学生の目からも捉えられていることが考えられた。

また、子どもが集団にうまく入ることができるか、園において子どもがどのように過ごしているかという心配をしていると回答者は受け取っている。また、集団生活への参加がスムーズになされるか、どのように過ごしているかということについても心配があるのではないかと記述があった。保育内容の変更が生じるため見通しが保護者にとって立ちにくくなっていることや、保護者として保育へのかかわり方や参加の仕方に変化があるという影響についても記述がみられた。

3) 生活者としての項目としては、仕事として勤務時間や働き方の変化、自宅で過ごす時間の増加、緊急時の対応、子どもとの時間の増加とそれによるストレス、夫婦関係の変化、経済的なことを分類した。これらの項目に分類した記述を見ると、実際に生活の様式が変化していること、緊急時の対応をどのようにすればよいか心配をされていること、子どもとかかわる時間の増加は保護者にとって負担でもある可能性があることが述べられている。また、仕事そのものが減らされてしまったり、収入の減少、あるいは夫婦関係についても心配が増加しているのではないかと、少数ではあるが記述がなされた。子どもを育てる役割だけでなく、保護者が生活者としてある人々だということへの理解も同時にしていることが検討できる。

6. まとめ

保育者や子どもたち、また子どもたちの保護者への新型コロナウイルス感染症の感染予防や行動自粛による影響や心配ごとについて学生に自由記述を求めた。それらの視点から、保育現場において熱心に感染予防に取り組んでいる保育者の姿とそのなかでも柔軟に過ごしている子どもたちの様子が浮かび上がった。また、保護者については、子どもたちの感染を心配しながらも、実際の生活者として仕事を継続しなければならないことや在宅勤務となったために状況が変化していることについても学生たちは視点を持っていることがわかった。子どもたちのことを懸命に守り育てながら、自身も働く一員として活躍されていることや、保育の場へ参加することによって子どもや子育てなどに関する情報共有をしている姿を学生たちがとらえていることが明らかとなった。

参考・引用文献

- 汐見稔幸、2020、コロナと保育指針、発達164号、ミネルヴァ書房、18-23
- 子育て支援を逆戻りさせてはならない、発達164号、ミネルヴァ書房、52-57
- 佐藤郁哉、2008、「質的データ分析法」、新曜社

